

### 八月の法座・行事

- 四日・報恩講習礼(寺族対象)  
(午後五時〜午後七時)
  - 六、七日・暁天講座  
大阪教区第六組 (午前六時半)  
願光寺住職 茨田 通俊 師  
講題 「愚かな身を生きる」
  - 十二日・無縁墓追弔会 (午前九時)  
闡如上人御逮夜・常永代経 (午後二時)
  - 墓所墓前申経 (午前九時〜午後五時まで)
  - 十三日・証如上人御祥月御命日
  - 闡如上人御命日 (午前八時)
  - 孟蘭盆会法要 (午後一時半)  
大阪教区第七組  
光明寺住職 山内 雅教 師
  - 墓所墓前申経 (午前九時〜午後五時まで)
  - 二十七日・宗祖聖人御逮夜 (午後二時)
  - 二十八日・宗祖聖人御命日 (午前八時)
- ※今月の同朋の会例会、正信偈書写の会、定例法話はお休みとさせていただきます。

### ◆敬弔

ご生前の遺徳を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

- 法名 正定院釋一心  
俗名 小田 一郎  
七月二日寂 享年九十六歳
- 法名 釋尼妙美  
俗名 古田 千代子  
七月二十四日寂 享年九十二歳

### 今月の天満別院伝導掲示板

花びらは散っても  
花は散らず  
人は去りても  
面影は去らず  
金子 大榮

※皆様、是非一度、天満別院ホームページもご覧ください。

霊園・墓石



**太田石材店**

本社 〒536-0001 大阪市城東区古市1丁目23番20号  
本店 〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目2番18号  
TEL 06-6930-5075 0120-30-5075  
FAX 06-6930-5078

### 編集後記

真宗では亡き人の靈魂が現世に来たり、また帰って行くという觀念を持ちません。だから、「迎え火」「送り火」などはしません。御膳をそなえることもしません。お盆は迷信的な要素の多い行事となっていますが、真宗の門徒は、亡き人の心につれ、仏様の教えを聞く機会としたいものです。(お内仏のお給仕より抜粋) 堀河

# 六字城

## 「和讃のおはなし」

真宗大谷派 鍵役  
宣心院 大谷 暢文

### 『勢至讚(一)』

勢至念佛(圓通)して  
五十二菩薩もろともに  
すなはち座よりたたしめて  
佛足頂礼せしめつつ

(勢至菩薩はお念仏によって円な悟りに到達し、ほかの五十二人の菩薩さま方と一緒に、すぐさまその座からお立ちになって、最高の礼を成して、教主であるお釈迦さまにおっしゃいました。)

今回より『勢至讚』(八首)となります。勢至菩薩は『仏説無量寿経』や『仏説観無量寿経』などに、阿弥陀仏

### 発行

真宗大谷派(東本願寺) 天満別院  
大阪市北区東天満一―八―二六

電話 六三五―一三五三五  
代表者 輪 番 武宮 信勝

の脇侍として、観世音菩薩とともにお出ましになります。特に『仏説観無量寿経』では、阿弥陀佛の左側に観世音菩薩、右側に勢至菩薩を配して阿弥陀三尊とされます。観世音菩薩は慈悲の象徴、勢至菩薩は智慧の象徴とされます。また「未敷蓮華」といって、つぼみの蓮華を持つて菩薩の象徴とすることもあり、密教などでは一周忌の法要の時の供養佛とされます。

さて、この「和讃」は『首楞嚴経』の「大勢至法王子、その同倫の五十一菩薩と、すなはち座より起ちて佛足を頂礼して佛に申してもうさく」に依っています。この『首楞嚴経』では、勢至菩薩がお釈迦さまに対して最大級の礼拝の作法でもって、敬いの心をあらわしているところが描写されています。

五十二菩薩については『首楞嚴経』の中にも具体的な菩薩のお名前は見られません。ただし、この五十二という人数は重要で、釈迦涅槃図にある声聞・菩薩・諸天などの五十二類としてみることができまます。お釈迦さまを中心と

した会座は、それぞれが法をお説きになる場であって、それぞれが重要な場でありまます。その中でもお釈迦さまの最後の会座は特に重要な会座といえるでしょう。だからこそ、勢至菩薩はいつにも増して最大級の礼拝という作法を行われたといえます。

そして親鸞聖人は、この重要な会座に臨席した勢至菩薩が、さらに私たちに重要な教えを勧められたと見られます。その教えがお念仏です。そのことは、この勢至讚八首の最後に「源空聖人ご本地なり」と記されていることからうかがえます。

親鸞聖人の師である法然上人は、智慧門によって第十八願のお念仏をひとえに勧められる勢至菩薩の垂迹として見られました。垂迹とは、仏や菩薩などが教えを説くために具体的な姿を現した状態を言います。親鸞聖人にとつて法然上人は、まさに勢至菩薩が法然上人として自分の前に現れ、お念仏の教えを授けてくださったのだと喜び、この八首のご和讃を作られたのです。

### 輪番雑感

「前に生まれん者は  
後を導き、  
後に生まれんものは  
前を訪え」 『安樂集』

輪番 武宮 信勝

つい最近の事である。御主人が亡くなったと別院に連絡があった。対応した職員の報告では、通夜・葬儀もしないで火葬した後、別院の合祀墓に納骨したいとのこと。いわゆる「直葬」である。法名も付けていない。こういうことは特段珍しい話ではなくここ数年、全国的によく聞くことでもあるが、改めて見直さずにはおられない。

人は生死のはざまにあつて、さまざまな苦悩を受ける業縁存在として今生きています。しかも一人で生きていく人は誰一人としていません。自然界をはじめ、親子・夫婦・兄弟・親戚はもとより無量無数の人々・あらゆる物質にお世話になって生きることができているのではありませんか。にもかかわらず、「面倒なことはしたくない」といつて人間関係を疎遠にし、ラクで簡単な思考に走り、ついには孤独ではなく孤立を深めています。便利・享楽性を追い求め続けてきた現代社会のひ

ずみと言わざるを得ません。我々の先達の方々が本当に大事にしてきた事柄が、雪崩の如く押し流されていることは誠に悲しいことでもあります。その一つに「葬儀式」があります。葬儀は遺された家族をはじめ、お世話になった全ての方々に、「私は限りある命を終え仏となつて浄土の国に還ります。どうぞお一人おひとり「いのち」の尊さに気づき、お念仏が申される生活(報恩謝徳)を大事にしてください」という最後のメッセージをお聞きする厳粛な場であります。

更に申すならば、お墓・納骨堂は「亡き人の面影を思慕し、阿弥陀仏の本願に寄り添つて参ります」と誓いを新たにする場でもあります。近々迎えする「お盆」は遺された我々が、日頃忙しさにかまけて「手が合わされる(礼拝)の掌を取り戻す」大切なご縁でもありましょう。まさしく私の人生は、亡き人との出会いによつて育てられ、お別れによつて深められていくのであります。

幸いにして冒頭に申し上げた方は、お話をさせていただき、御主人の法名を付け、別院仏間において還骨のまま葬儀をした後、合祀墓に安置されました。

### ◆仏前結婚式

七月一日(日)、天満別院において、久世信様、村上真貴子様のお前結婚式を執り行いました。ご結婚おめでとうございます。



◎天満別院では仏前結婚式を随時受け付け致しております。

浄土真宗の結婚式は、ご本尊の阿弥陀如来の尊前で、まことに深い因縁によつて遇う事のできたお二人が、その一生を共に生きていこうと誓いをたてあう厳粛な儀式です。

寺院関係の皆様だけでなく、ご門徒の方々の挙式もご遠慮なくお申し込みください。ご相談、下見等のお問い合わせは天満別院寺務所までご連絡ください。

### ◆暁天講座のご案内

左記の日程で暁天講座を開講致します。

日時 八月六日(月)、七日(火)

両日ともに午前六時三十分より

講師 大阪教区第六組

願光寺住職 茨田 通俊 師

講題 「愚かな身を生きる」

会場は別院一階講堂になります。聴講は無料です。尚、講座終了後には軽食を用意しております。一人でも多くの方のご聴講をお待ちしております。

### ◆孟蘭盆会法要のご案内

左記の通り孟蘭盆会法要を勤修致します。

日時 八月十三日(月)

午後一時半より

講師 大阪教区第七組

光明寺住職 山内 雅教 師

### ◆別院墓所の墓前申経

今年度の別院墓所の墓前申経の日程は左記の二日間となります。墓所にて午前九時から午後四時三十分まで申経の受付をいたしております。

八月十二日(日)

十三日(月)

※お盆期間にお墓へお参りされる皆様へ

○ お供え物はお供えしていただいた当日にお持ち帰りいただきますようお願いいたします。

○ 墓所周辺の道路は駐車禁止となっております。特にお盆期間は警察による取り締まりがございます。別院講堂前駐車場が満車の場合は南側別院境内に駐車いただきますようお願いいたします。

### ◆同朋の会例会開催の報告

天満別院では、七月八日(日)の十四時より同朋の会が開催されました。大阪教区第七組教應寺住職 建部智宏師に『正信偈』に出てくる天親菩薩についてお話をいただきました。

来月は諸般の事情により同朋の会はお休みいたしますのでよろしくお願いたします。



教應寺 建部 智宏 師



善福寺 野村 正示 師

### ◆定例法話開催の報告

天満別院では去る七月二十七日(金)の十三時半より定例法話が開催されました。

御講師には、大阪教区第十三組善福寺住職 野村 正示師にお越しいただき、『正信偈』はお経ではなく偈(歌)である。私たちは言葉の世界で生きていくためにすぐに善い、悪いを考えてしまう。等々のわかりやすい法話でした。